

上尾市脱炭素シナリオアンケート 調査結果

上尾市環境政策課

調 査 概 要

【調査目的】

上尾市では、2050年までに市内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティの実現を目指しており、市民・事業者・行政が一体となって脱炭素に向けた取組を行っていけるよう脱炭素シナリオや将来ビジョンの策定を予定している。市の今後の取組に反映させるため、アンケート調査を実施する。

【対象者】

市内に在住・在勤・在学の人、市内に事務所・事業所・固定資産を有する人、利害関係者

【実施期間】

令和4年11月15日から令和4年12月5日まで

【回答方法】

環境政策課か各支所、出張所、公民館へ直接、または電子申請（環境政策課ホームページ内）、郵送、メール、FAX

【回答数】

461件

Q1 上尾市が「上尾市ゼロカーボンシティ宣言」を表明していることは知っていますか。

A 知っている	209
B 知らない	136
C 聞いたことはある（内容は知らない）	116
合計	461

Q2 地球温暖化や気候変動などの環境問題に関心がありますか。

A とても関心がある	94
B どちらかというに関心がある	294
C あまり関心がない	63
D 関心がない	10
合計	461

Q3 ゼロカーボンシティの実現に向けた取組について

A 積極的に取り組みたい	73
B できれば取り組みたい	339
C あまり取り組みたくない	42
D 取り組みたくない	7
合計	461

Q4 (Q3でA又はBと答えた方) 取り組んでいる又は今後取り組みたいものはどれですか。(複数回答可)

A 節電	320	G 3R	3
B 太陽光発電システムの設置	30	H 環境保全活動	6
C 再エネ電力の利用	13	I 電力使用量の見える化	4
D 電気自動車の利用	20	J 環境に配慮した製品の購入	8
E 省エネ製品の購入	12	K その他	5
F 食品ロス削減	18	合計	477

※その他の意見 抜粋 (旬のものを購入)

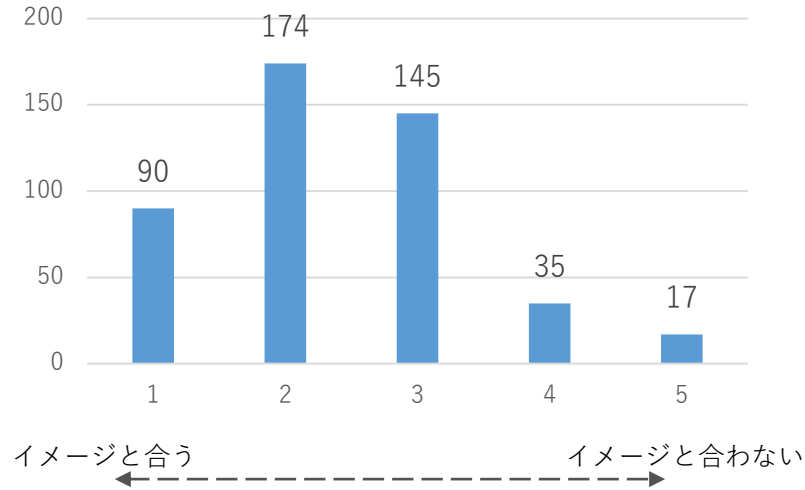
Q5 (Q3でC又はDと答えた方) 取り組みたくない理由は何ですか(複数回答可)

A 経済的に負担がかかる	35	E 生活の中で意識することが難しい	5
B 情報がない(少ない)	17	F 効果がわかenらない	13
C 必要性を感じない	4	G その他	14
D 興味がない	14	合計	102

※その他の意見 抜粋 (すでにそれなりに取り組んでいるから)

Q6-2 省エネルギー住宅

住宅の断熱性能の向上と日射遮蔽性能の向上により「冬は最小限の暖房エネルギーで暖かい」「夏は最小限の冷房エネルギーで涼しい」省エネルギー住宅が普及し健康で快適な暮らしができています。

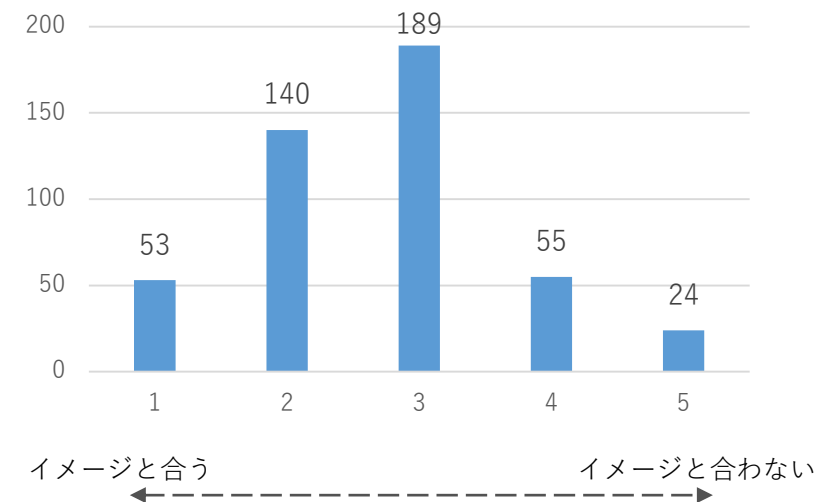


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「省エネルギー住宅は今後広がると思う。」
- 2：イメージに近いに回答「環境に左右されない省エネルギー住宅の低価格化または、自治体補助による促進がなされれば。」
- 3：どちらでもないに回答「各世帯の生活状況により全ての住宅が省エネルギー住宅とは考えにくいと思います。」
- 4：イメージと少し違うに回答「現在の家やマンションに引き続き住んでいる場合、省エネルギー住宅への切替（住替え）が難しい。」
- 5：イメージと合わないに回答「収入が増えていない今、設備の整った住宅の購入に金はかけられず、空き家問題から中古住宅の販売が活発になると思います。」

Q6-3 地域内でエネルギー循環

地域の再生可能エネルギーによって作られたエネルギーは市内の事業者や家庭で使用する仕組みができています。

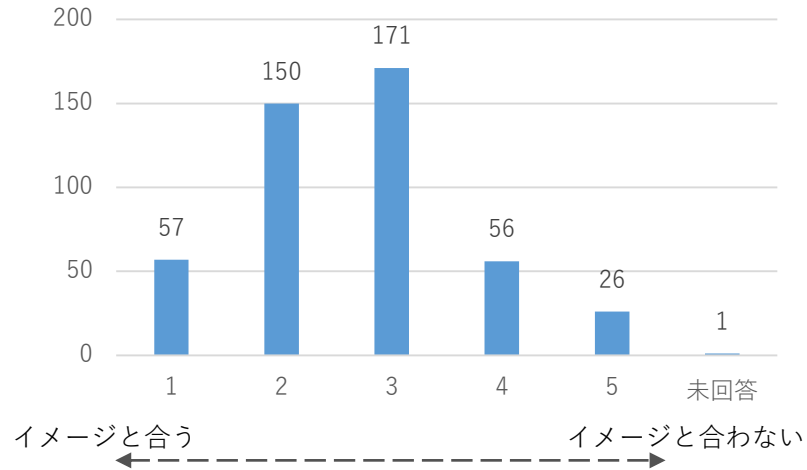


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「地域のみならず、市で共有するなどして、全体で取り組むことが求められると思います。」
- 2：イメージに近いに回答「このような形で「事業」として経済的に成り立つようなシステムづくりが必要。」
- 3：どちらでもないに回答「実現可能なものなか不明なため分からない。」
- 4：イメージと少し違うに回答「実質的に難しいと思う。」
- 5：イメージと合わないに回答「市内という範囲が狭すぎて、現実的ではない。」

Q6-4 災害に強いまち レジリエンス向上

市内の避難所には、太陽光発電システムや蓄電池が導入されており、有事の際の避難生活時に活用することができるようになっている。各家庭の多くにも太陽光発電システムと蓄電池が設置されており、災害時の停電にも強いまちとなっている。

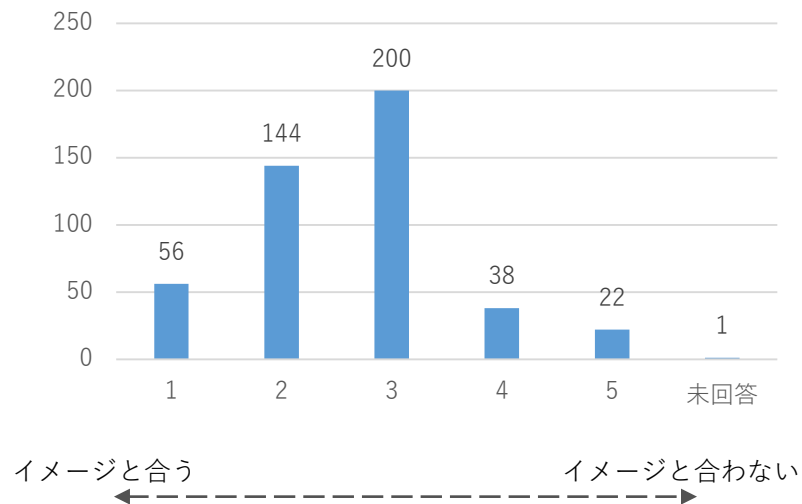


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「緊急時に必要なものの一つとして、電力の確保が挙げられると思います。スマホの充電や各種機器の動力にもなると思うので、必須であると感じます。」
- 2：イメージに近いに回答「イメージに近いが、太陽光発電、蓄電池だけで避難所を賄えられるか不安。」
- 3：どちらでもないに回答「太陽光発電システムは天気に大きく影響を受ける、また、コストやメンテナンスにも課題がある。」
- 4：イメージと少し違うに回答「実質的に難しいと思う。」
- 5：イメージと合わないに回答「災害時の想定が様々であり、その復旧についてもイメージがつかない。また、太陽光発電システムが災害時に本当に機能するのかわからない。」

Q6-5 市内企業の活性化

市内企業で脱炭素の取組が行われており、経営改善・企業の魅力が向上している。

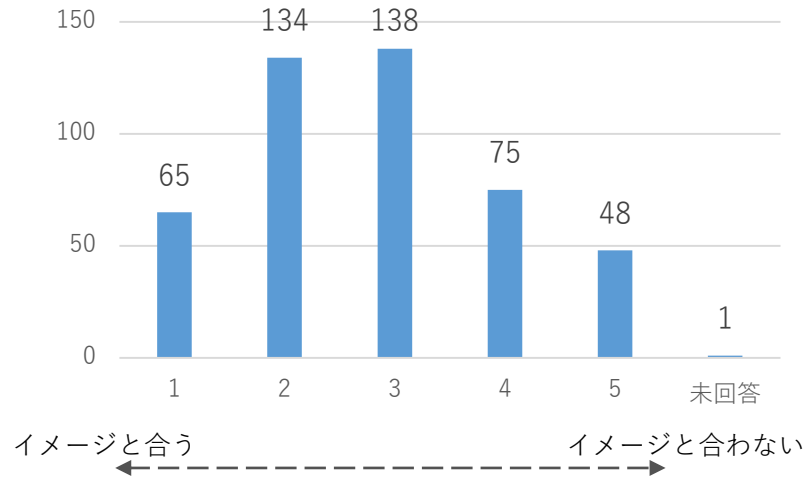


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「企業の方が先行して脱炭素に取り組むと思われる。」
- 2：イメージに近いに回答「脱炭素の取組が企業イメージの向上となるような情報提供システムを用意する必要があると思う。」
- 3：どちらでもないに回答「具体的な取り組みがわからないため、判断がつかない。」
- 4：イメージと少し違うに回答「脱炭素化の取り組みに設備投資が可能な企業は少なく、多くの企業が倒産に追い込まれる。」
- 5：イメージと合わないに回答「不景気で企業は脱炭素に気が回らなそう。」

Q6-6 電気自動車の普及

市内を走る車は全てEV化されている。EV車の充電設備は市内に点在しており、いつでも充電できる環境になっている。

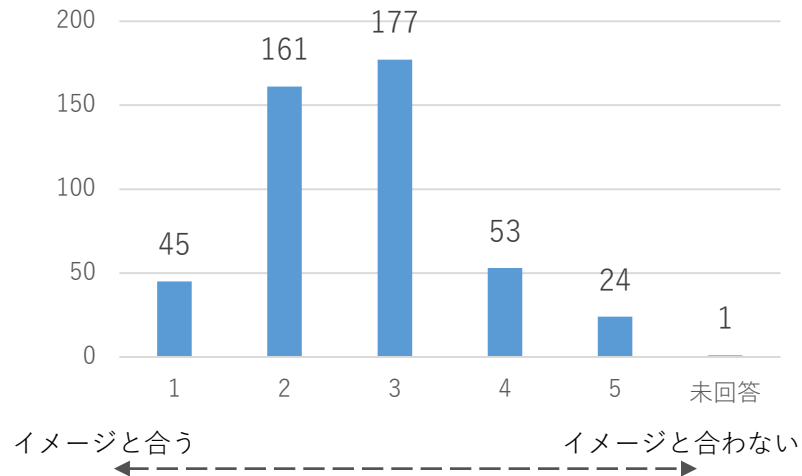


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「将来的には必要と思う。」
- 2：イメージに近いに回答「市内で電力を生み出しそれを市民が活用できれば良いと思う。」
- 3：どちらでもないに回答「電気自動車以外の移動手段もまだ開発される可能性は、あるのではないか。」
- 4：イメージと少し違うに回答「市民が所有する車をすべてEV化するのは難しいと思う。」
- 5：イメージと合わないに回答「充電設備のイメージがわからず、本当にいつでも充電ができる環境が創出されえるか、わからない。」

Q6-7 建物のゼロエネルギー化（ZEB・ZEH）

公共施設やビル、商業施設などではZEB化が進み、新築住宅ではZEHが当たり前になっており、省エネと快適性が両立している。

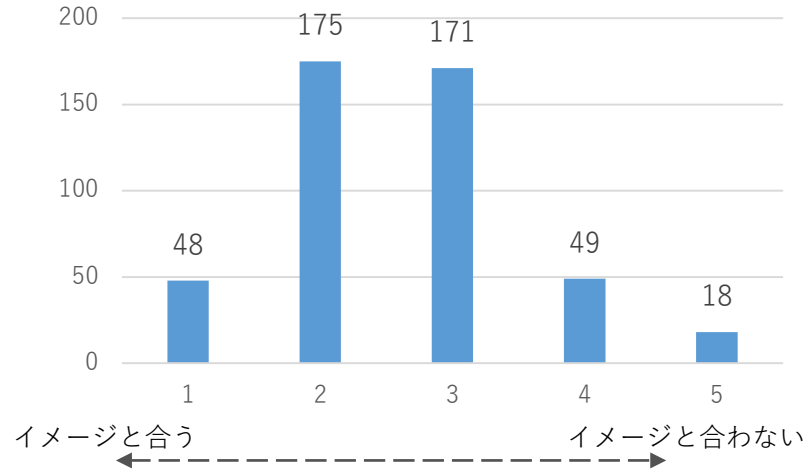


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「エネルギー問題に寄与するだけでなく、市民の健康寿命にも寄与するので重要な項目であると考える。」
- 2：イメージに近いに回答「今後、住宅の省エネ義務化など、建築業界を含め確実に準備されており、社会全体がZEB・ZEHにシフトを変えていくと思われる。」
- 3：どちらでもないに回答「建築物の建て替え等コストも含めてそんなに早く入れ替わるかが不透明。」
- 4：イメージと少し違うに回答「本当にそういうことができるのか、特に個人住宅などについては、どこまで規制できるのかわからない。」
- 5：イメージと合わないに回答「イメージとは程遠い。」

Q6-8 自発的な脱炭素化の取組が普及

各部門（産業・家庭・運輸・業務・廃棄物）脱炭素化への取組の必要性を理解し、それぞれの状況や環境に合った取組を自ら選択して実行できている。

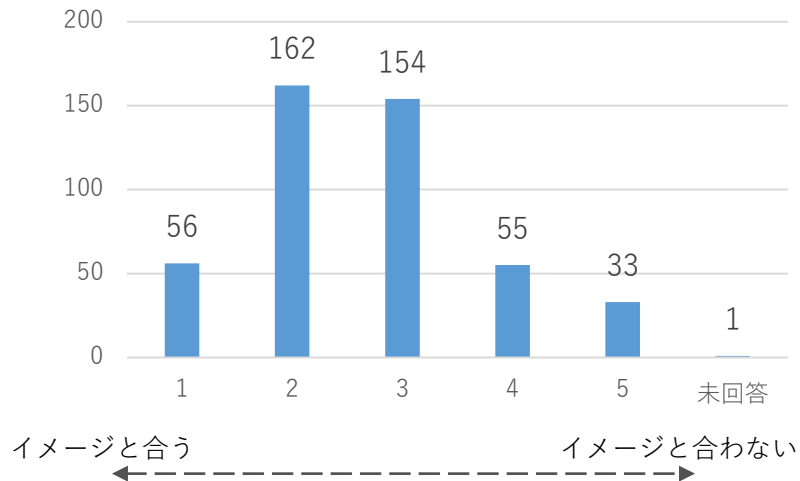


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「各部門（産業・家庭・運輸・業務・廃棄物）の企業等の協力なしでは、ゼロカーボン都市の実現は難しいと感じます。」
- 2：イメージに近いに回答「各部門ごとに取り組むことができて、総合的にどこまで取り組みができるか疑問。」
- 3：どちらでもないに回答「想像がつかない。」
- 4：イメージと少し違うに回答「特に個人（家庭）では、実行できるのかわからない。」
- 5：イメージと合わないに回答「わからない。」

Q6-9 再生可能エネルギーの普及

各家庭や市内事業所には太陽光発電システムや蓄電池が設置されており、自家消費されている。

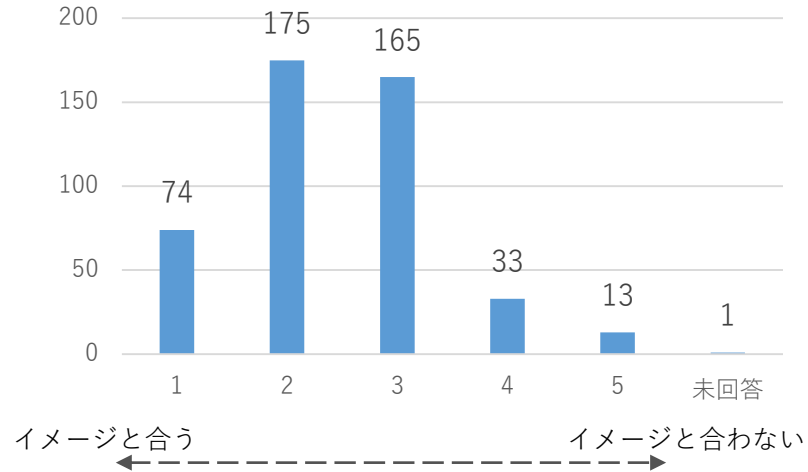


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「市内各所に太陽光発電設備や蓄電設備が普及する。」
- 2：イメージに近いに回答「今よりはかなり再生エネルギーに力を入れていると思う。」
- 3：どちらでもないに回答「太陽光発電システムの対応年須、破棄問題など課題がある。」
- 4：イメージと少し違うに回答「各家庭に普及するには費用がかかる。」
- 5：イメージと合わないに回答「太陽光発電の環境負荷への疑問と廃棄問題による。」

Q6-10 省エネ行動の定着

省エネルギーの取組が各家庭に定着し、消費エネルギーが減少している。

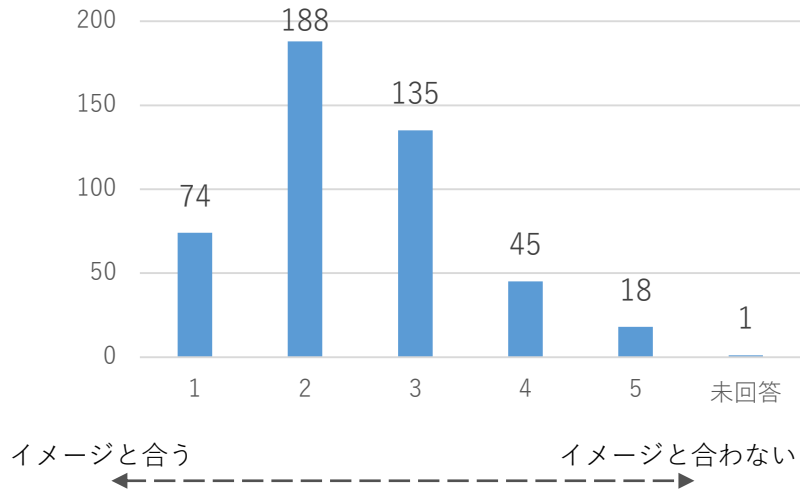


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「金額が掛かる省エネルギー難しいが出来る範囲で取り組みできる。」
- 2：イメージに近いに回答「どこの家庭も省エネには関心を持ち減少していると思う。」
- 3：どちらでもないに回答「省エネルギーの取組は実施するが、減少しているとは思えない。」
- 4：イメージと少し違うに回答「快適を知っている現代人には無理だと思う。」

Q6-11 公共交通機関の充実・移動手段の多様化

市内バスなどの公共交通機関が需要に見合った運行状況が整っており、カーシェアリングの拡充や「MaaS」などの技術が導入され、多様なニーズに対応できる環境が整っている。

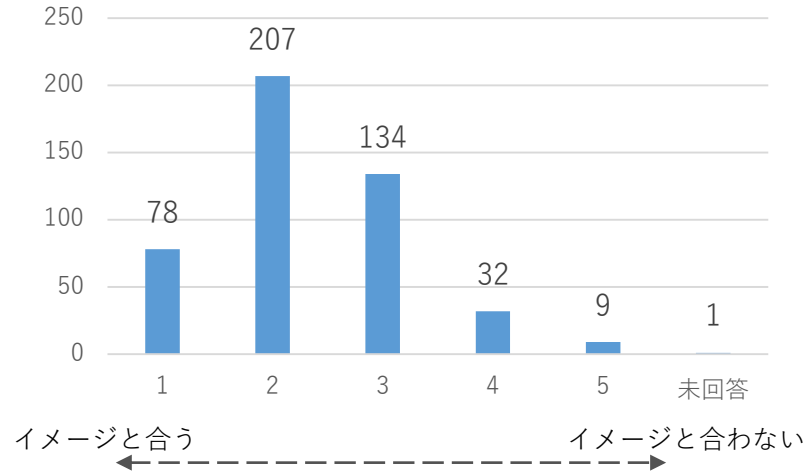


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「公共交通機関の環境整備が充実することで、自家用車等から出る二酸化炭素等が減少することが考えられます。」
- 2：イメージに近いに回答「実際、現代社会は車を所有する考えより、シェアする方向になり、簡単に予約ができるため、このシステムはもっと進化していくと思う。」
- 3：どちらでもないに回答「市内バスの運行時間が市民の行動と余り合致していない。カーシェアリングは面倒くさいイメージがある。」
- 4：イメージと少し違うに回答「公共交通機関が少なく、高齢者ドライバーが生活のために自家用車を運転する昨今の事情を考えれば、簡単に多様化を図ることができるとは思えない。」
- 5：イメージと合わないに回答「自宅から目的地までの移動手段が公共交通機関等で成立するためには、相当の期間が必要と考える。」

Q6-12 循環型社会の定着

6 Rについて十分に周知され、市内にリサイクルBOXが点在し、気軽に分別・リサイクルできる仕組みができています。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「リサイクルボックスがもっと多くの場所に設置され、意識付けができています。」

2：イメージに近いに回答「意識づくりの構築と併せて地道にやれば、その仕組みは可能と考える。」

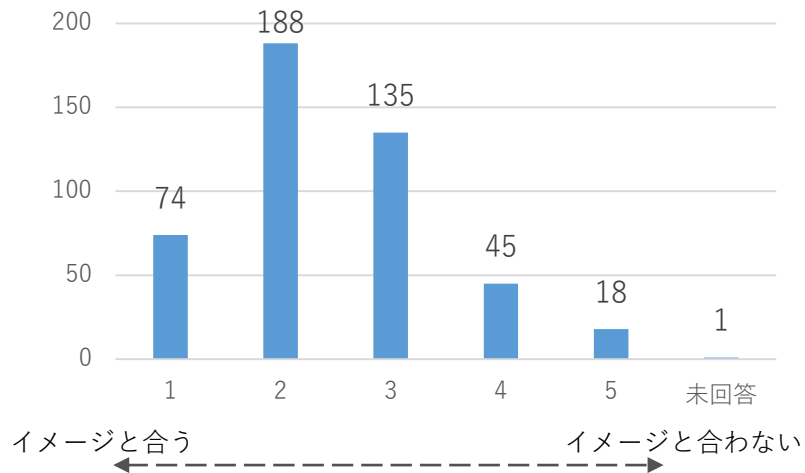
3：どちらでもないに回答「リサイクルボックスの多さ、近さが課題と思われる。」

4：イメージと少し違うに回答「今現在からやるべき仕組みであるが、出来ていない。」

5：イメージと合わないに回答「上尾市は、分別意識が近隣自治体より四半世紀遅れているので、2050年では定着できていない。」

Q6-13 自然環境

市内の自然が維持されており、公園や緑地が整備され、自然環境についてより身近に感じられるようになっている。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「「自然」というものが人工的な自然になるような気がする。」

2：イメージに近いに回答「市内に残る貴重な自然(絶滅危惧種等)が何なのかも十分議論や周知がされていない。それらを知りどう残すかを考えていくことが必要。」

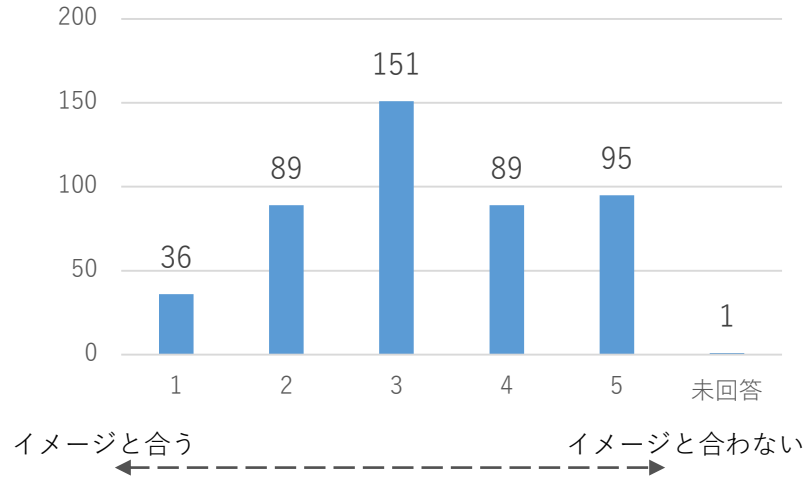
3：どちらでもないに回答「「より」身近に感じるほどの施策は想像できない。」

4：イメージと少し違うに回答「市内の緑地は減少し整備には経費もかかることから、維持することはできても身近に感じられるような自然環境は難しいと思います。」

5：イメージと合わないに回答「人の手の入る公園などの除草や落ち葉の処理などの整備もままならない。上尾には原生林があるわけではないので、自然の維持といっても、ただ野放図に草木が生えて居ればよいというわけではなく。自然環境の維持は極めて難しいと考える。」

Q6-14 安定した気候

気候変動が抑制され、1年を通して今より過ごしやすい気候となっており、大雨等の自然災害が減少している。

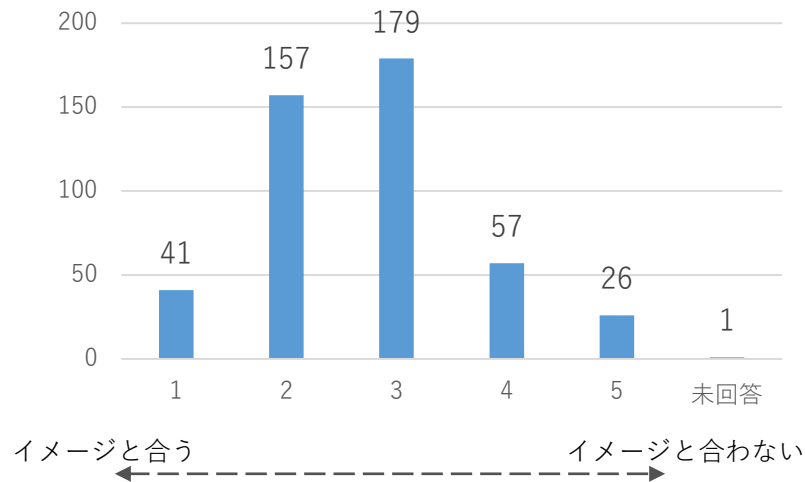


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「異常気候が増えている状況を少しでも改善する必要がある。」
- 3：どちらでもないに回答「このことに向けた取り組みをすることは良いと思うが、市町村単位で語ることはスケールが大きすぎる印象。」
- 4：イメージと少し違うに回答「短い期間では、自然は制御不可能と思われる。」
- 5：イメージと合わないに回答「そんなに簡単に抑制されないと思う。」

Q6-15 エネルギーコスト（光熱費等）の低下・安定

AIやICT技術により光熱費が見える化できる環境が整っており、エネルギーコストが低下・安定している。

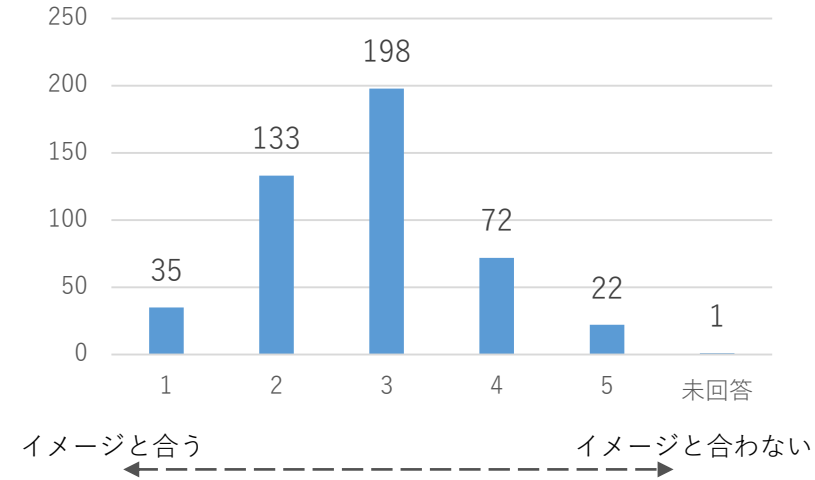


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「太陽光発電パネルや蓄電池設備が今より低コストで設置できるように技術確認が進み、エネルギーコストが下がる。」
- 2：イメージに近いに回答「外貨や株に影響されやすい、燃料単価であるが、社会情勢によっては不安定と感じる。」
- 3：どちらでもないに回答「エネルギーコストは今後上昇する様な気がします。」
- 4：イメージと少し違うに回答「現在の状況をみると考えられない。」
- 5：イメージと合わないに回答「光熱費が見える化ができて、エネルギーコストが低下するとは思えない。」

Q6-16 他地域との連携

市内の再生可能エネルギーのみでは足りない電力は他地域から供給できるような仕組みが構築されている。

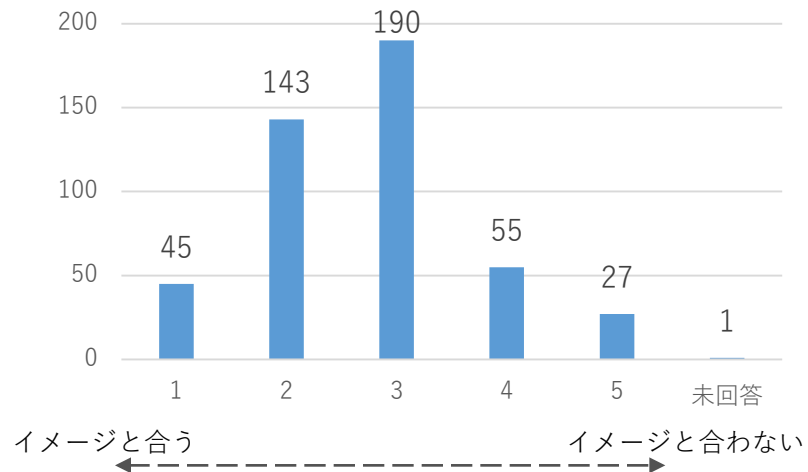


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「地域ごとに再エネ電力を融通し合うことができる。」
- 2：イメージに近いに回答「市内という狭い範囲では、他地域からの供給の構築は不可欠である。」
- 3：どちらでもないに回答「市内でできる範囲で実施されていればよいと思う。」
- 4：イメージと少し違うに回答「再生可能エネルギーに頼った生活は今のところ考えられない。」
- 5：イメージと合わないに回答「原則市内の再生可能エネルギーのみで市内の全エネルギーをカバーすることは不可能と考えます。新電力業者による電力供給コストが下がって安定し、新電力によるエネルギー供給が一般的になっていると思います。」

Q6-17 スマートシティ

人々の暮らしを支える様々なものに対して、ICTやIoT、AI等の新しい技術を活用し、環境、エネルギー、交通、福祉など地域課題が解決されている。

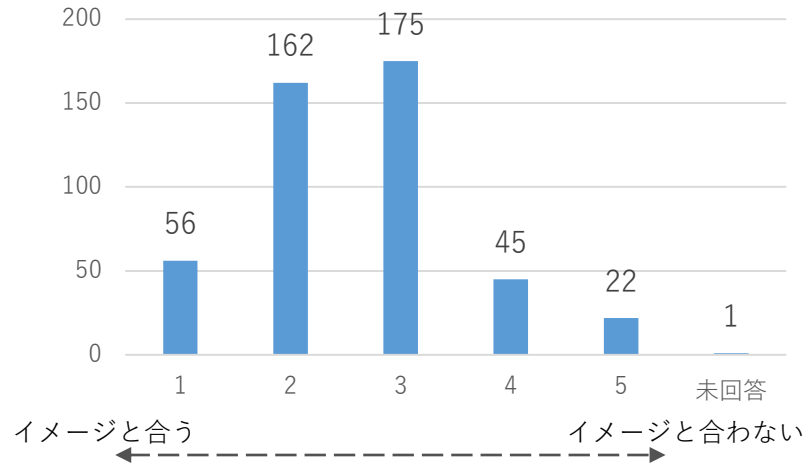


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「ICTやIoT、AI技術により自動運転の路線バスやタクシーが増えて、公共移動機関の利用率が上がる。」
- 2：イメージに近いに回答「解決するかどうかはわからないが、課題解決の一つの手段にはなっていくものとする。」
- 3：どちらでもないに回答「新しい技術の活用は必要だが、新しい技術には見えざるリスクが包含されている場合が多い。安易に新しい技術に全面的に飛びつくのは危険。」
- 5：イメージと合わないに回答「現在の状況からは考えられない。」

Q6-18 イノベーション

様々な分野で革新的なイノベーションが進み、現在にはない新たな技術が普及し、脱炭素への変革が進んでいる。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「各企業等で努力している項目や市で取り組んでいる項目を共有することも大切と感じます。」

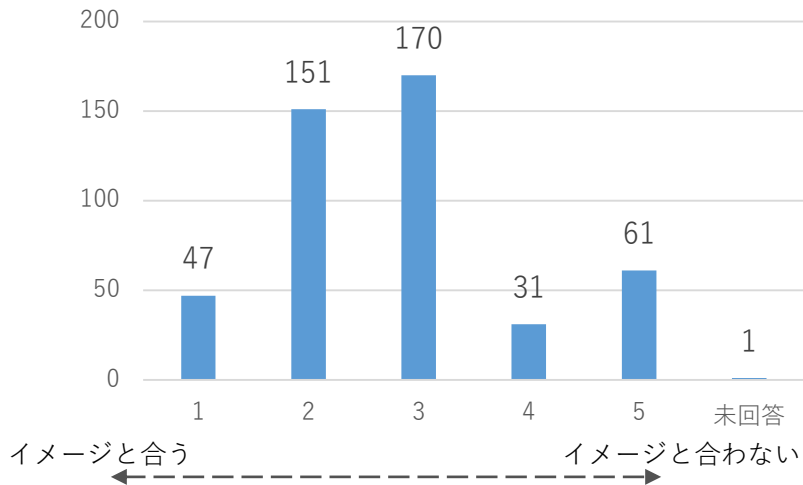
2：イメージに近いに回答「脱炭素の新たな技術は開発されていると思う。」

3：どちらでもないに回答「脱炭素へ向けた取り組みが、どのような成果をもたらせるかまだわからない。」

4：イメージと少し違うに回答「革新的なイノベーションは簡単には普及しないと考える。」

Q6-19 働き方の変化・移動の必要性の減少

オンラインなどの仕事のデジタル化を通じて場所や時間にとらわれない働き方が定着し、移動の必要性が少なくなっている。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「コロナを機に、自宅でできること、庁舎や会社でできることが明確になった。このことを継続していくことで、場所や時間にとらわれない働き方が定着し、自家用車等から出る二酸化炭素等を減少することができる。」

2：イメージに近いに回答「オンライン、ズームでの会議等、今後は多く取り入れるべきと思います。」

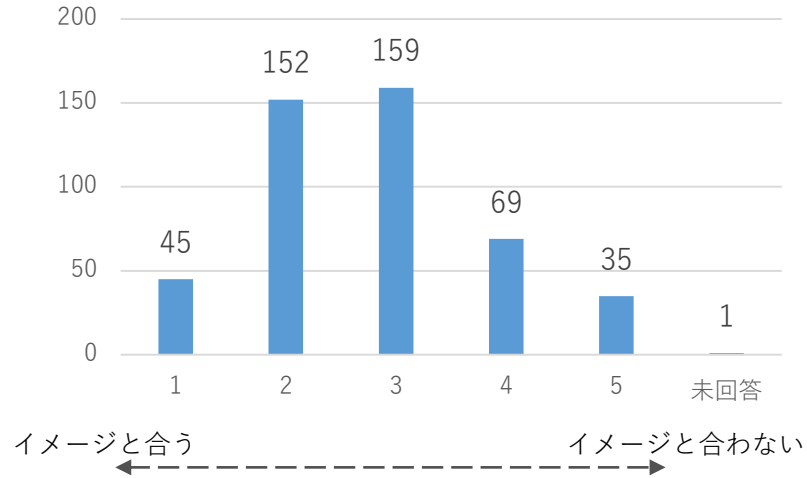
3：どちらでもないに回答「基本的はその通りだと思うが、対面でないと解決できない事柄がある程度は、残ると考える。」

4：イメージと少し違うに回答「職種により場所や時間にとらわれない働き方が定着していると思われるが、一方では対面して人と繋がることも仕事では重要と思われるため。」

5：イメージと合わないに回答「実際に働く現場が無くなるとは考えられない。」

Q6-20 地産地消の推進

市内で生産された農産物は、市内で流通し消費されるようになっており、長距離運送によるCO₂排出量の抑制ができています。

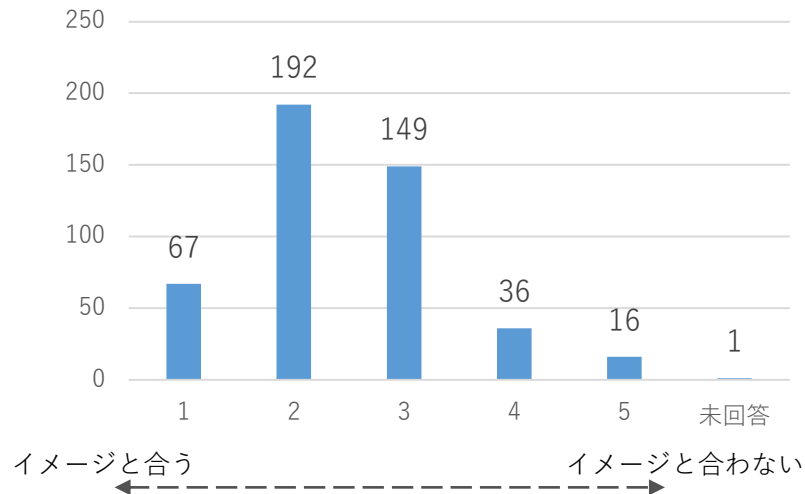


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「「流通」を前提とした「規格」から外れた物も身近に手に入るようにできたらと思う。」
- 2：イメージに近いに回答「地場産の野菜など積極的に購入されていければよいと思います。」
- 3：どちらでもないに回答「市内だけで供給可能になるか不明。」
- 4：イメージと少し違うに回答「地産地消が完全に出来るとは考えられない。」
- 5：イメージと合わないに回答「市内での農業人口は減少しているため、難しいと思います。」

Q6-21 食品ロスの削減

フードバンク・フードドライブ活動や必要な分のみ購入、「食べきり」「持ち帰り」など食品ロスを減らす取組が定着している。

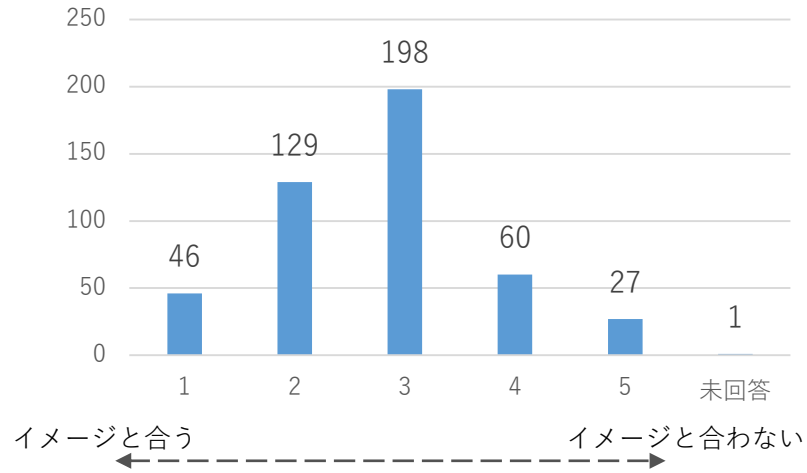


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「今の10代・20代の多くは贅沢や無駄をしないため、2050年には必要な分のみ購入や、「食べきり」「持ち帰り」は定着している。」
- 2：イメージに近いに回答「この取り組みが浸透して実施されていると思う。」
- 3：どちらでもないに回答「考え方は普及すると思うが、皆がやるとは考えられない。」
- 4：イメージと少し違うに回答「世界的に貧困問題や食料不足の問題があり、取り組みは定着するが、全ての人の暮らしが豊かになるとは考えにくいと思います。」

Q6-22 暮らしに木材を取り入れる・建築物の木質化

建築物の木質化が進み、CO₂を木の中に長く固定することができる。内装にも木材を利用することで快適な空間ができている。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「国の方針や補助金の活用次第ではあるが、環境教育を受けた人たちは木材の利用を促進する。」

2：イメージに近いに回答「単に木材が取り入れられているだけでは、外国産の安い部材を利用している事例が多い。県産材の地産地消という考え方とそれを支える仕組みの構築が求められる。」

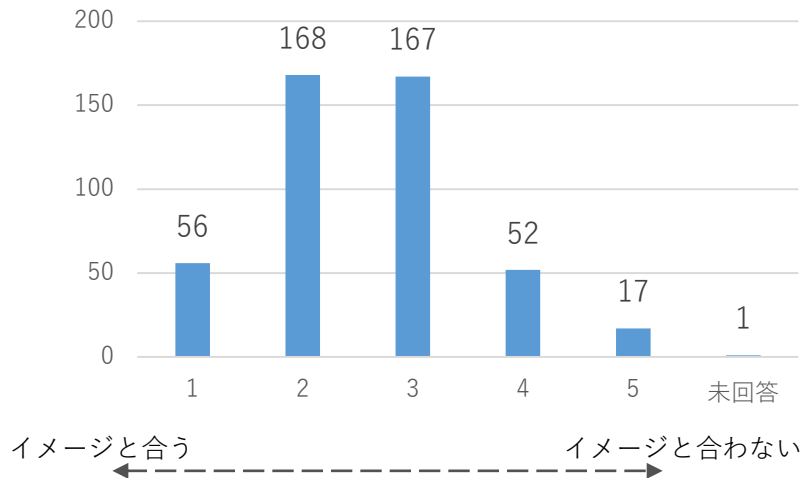
3：どちらでもないに回答「企業も率先して実現できる方向に向かっていけばいいと思う。」

4：イメージと少し違うに回答「理想は設問の通りだが、現実には不可能に近いと思われる。」

5：イメージと合わないに回答「合板で出来た現在の住宅である以上、何も変わらない。」

Q6-23 シェアリング

レンタルサービスやカーシェアリング、シェアリングサイクルなどもの・サービス・場所などを多くの人と共有・交換できる仕組みが定着している。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「多くの若い世代は所有欲が希薄である。使う時だけ借りるなどが常識となっている。」

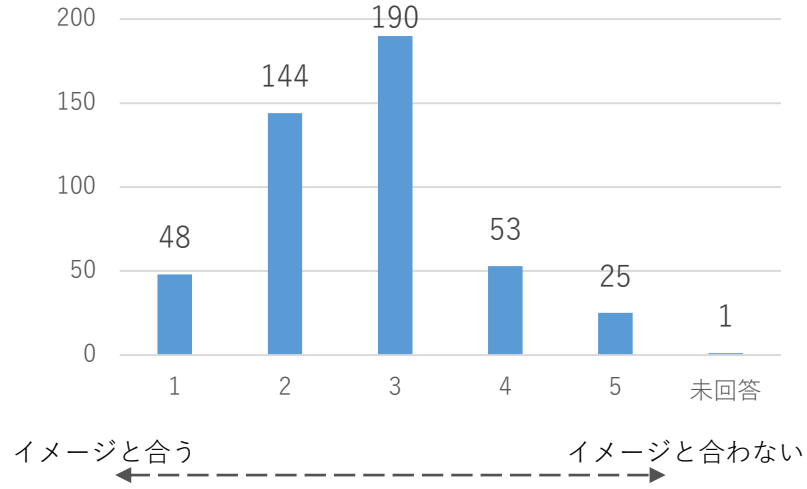
2：イメージに近いに回答「この普及が早急に進み、定着できていると思います。」

3：どちらでもないに回答「良いと思うが、カーシェアやシェアサイクルについては、上尾市だと有効なエリアが限られると思う。」

5：イメージと合わないに回答「レンタルやシェアリングは性分に合わない人も多いと思われる。」

Q6-24 コンパクトシティ

都市機能の集約化による移動距離の低減、公共交通機関の利便性の向上による自動車からの温室効果ガス排出抑制、エネルギーの効率化が図られている。

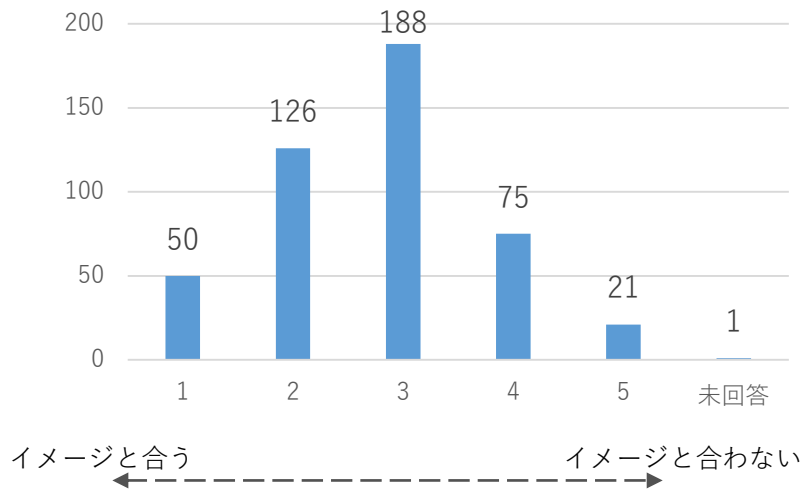


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「「理屈は分かるが、土地への執着の強さが障害になる気がする。」
- 2：イメージに近いに回答「コンパクトシティを進めていかなければ、都市機能の維持が難しくなっている。」
- 3：どちらでもないに回答「都市機能の集約化は難しい。」
- 4：イメージと少し違うに回答「人が散り散りではなく、まとまって住んでいた方が様々な面で効率的だが、実現するにはかなりハードルが高いと考える。」
- 5：イメージと合わないに回答「一極集中にしかない。」

Q6-25 他地域との交流

森林や緑地が多い他地域との交流も増え、子どもが自然に触れる機会が増加している。

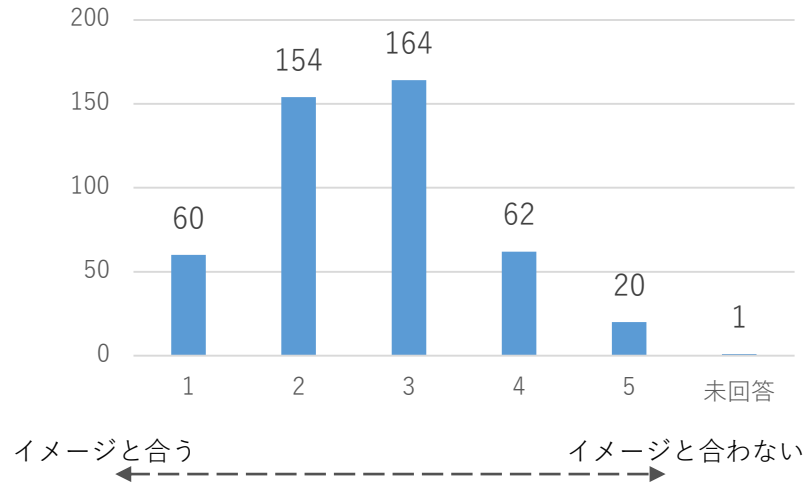


【自由記入欄】

- 2：イメージに近いに回答「現実性はともかく子供たちが自然と触れ合う機会が増えるのは良いと考える。」
- 3：どちらでもないに回答「現在も個人単位では、行っているのではないか。」
- 4：イメージと少し違うに回答「こどもが自然に触れているイメージがない。」
- 5：イメージと合わないに回答「自然が多く残る地域は不便と感じる人が多い時代になる。」

Q6-26 緑の保全

地域で親しまれている雑木林や貴重な樹木などが維持・管理されている。

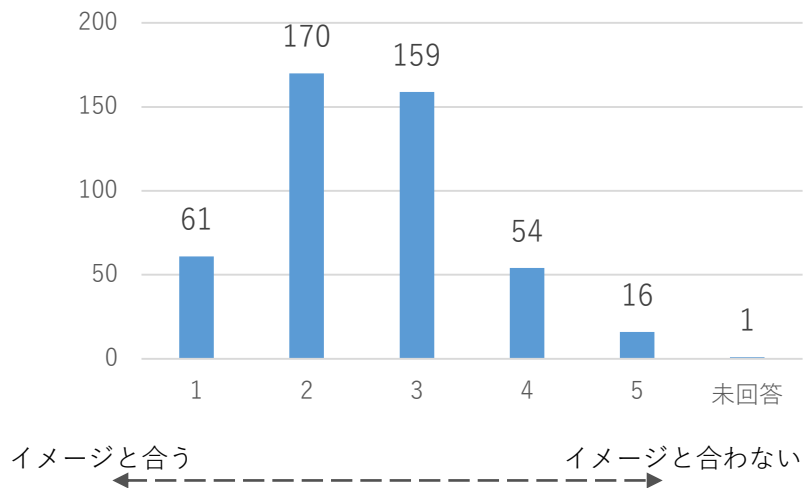


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「残っている雑木林や樹木を次世代に伝える仕組みが欲しい。」
- 2：イメージに近いに回答「みんなが意識しているとおもうので、緑は管理されていると思う。」
- 3：どちらでもないに回答「人口が減るため税収も減り、管理する数はたいして減らない。そのため維持管理が追い付かなくて逆に荒れそう。」
- 4：イメージと少し違うに回答「市による管理が徹底されていなければ、この5～10年くらいで宅地化が進み雑木林はなくなる。」
- 5：イメージと合わないに回答「現時点で地域で親しまれている場所は少ないと思う。」

Q6-27 ごみ減量

コンポストや生ごみ処理容器が各家庭に普及するなど、各々がごみ削減の取組を行い、自然に負担がかからない社会となっている。

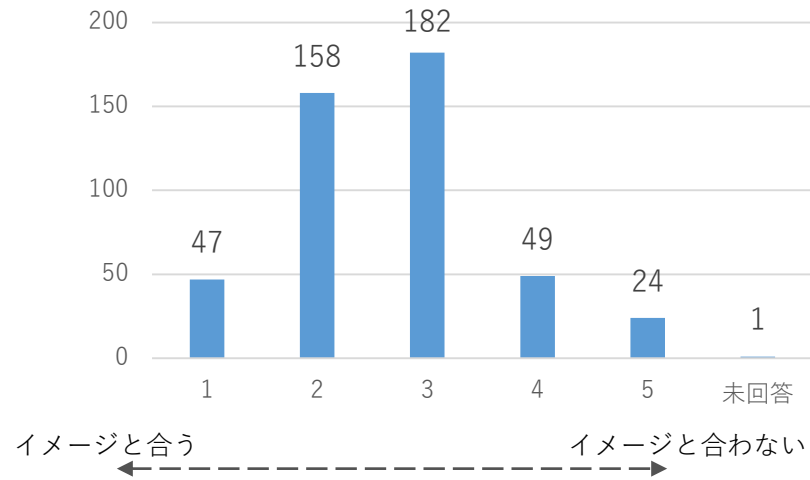


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「コンポストや生ごみ処理容器でできた肥料を使える畑等、ごみを減らすだけでなく、折角できた肥料を再利用させられるような安定的な仕組みが欲しい。」
- 2：イメージに近いに回答「ゴミの減少も環境問題を解決する上で必要なことであると考えています。」
- 3：どちらでもないに回答「理想はありますが、ごみの問題は難しいと思います。」
- 4：イメージと少し違うに回答「自宅ではそのような取り組みは可能だが、出来ない、やらない家庭も多くあると思われる。」
- 5：イメージと合わないに回答「上尾市のように、集合住宅や狭隘な家庭環境にそぐわない。」

Q6-28 生物の維持・保全

多様な生物の生息・生育の場が維持・保全されており、地域本来の生物を守り、育てる環境ができている。

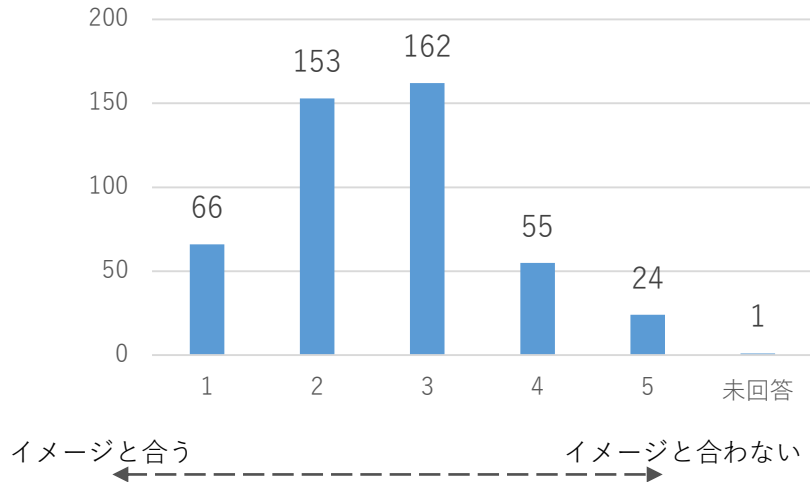


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「貴重な動植物が何なのかも十分に周知されていない。」
- 2：イメージに近いに回答「生物や昆虫が住んでいる雑木林等の減少により、むしろ環境が整っていない状況になっている。」
- 3：どちらでもないに回答「開発が進んで生物を守る環境ではなくなっていると思います。」
- 4：イメージと少し違うに回答「自然の中で生きる生物はいなくなると思う。」
- 5：イメージと合わないに回答「自然を残す取り組みや投資はなかなか出来ない環境がある。」

Q6-29 空気がきれいな市

電気自動車等の普及により、排気ガスによる大気汚染が減少し、現在よりも空気がきれいになり快適な環境となっている。

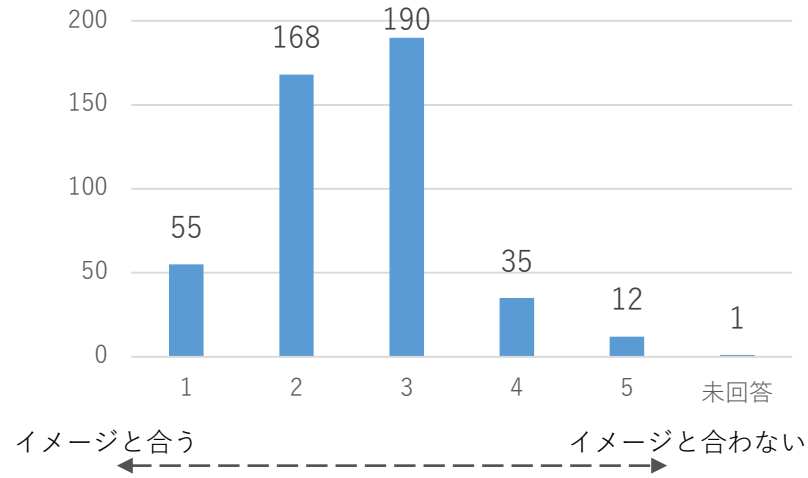


【自由記入欄】

- 1：イメージと合うに回答「電気自動車が普及すれば、現在よりも空気はきれいになると思う。」
- 2：イメージに近いに回答「排気ガスの減少は望ましいが、蓄電池等の処理に使われるエネルギーまで総合的に評価する必要がある。」
- 3：どちらでもないに回答「電気自動車はたいして普及しないと思います。」
- 5：イメージと合わないに回答「多くの排気ガスを出すダンプ等の大型車の電動化には時間がかかり目標の機関には無理と思われる。」

Q6-30 個人のESG投資

地球温暖化への対策に取り組む企業の商品の購入や製品・サービスの利用、投資等を行う人が増え、環境に配慮する企業が増加している。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「企業及び市などは、地球温暖化への対策に取り組むことが求められるので、環境に配慮する企業が増加していかなければならないと考えています。」

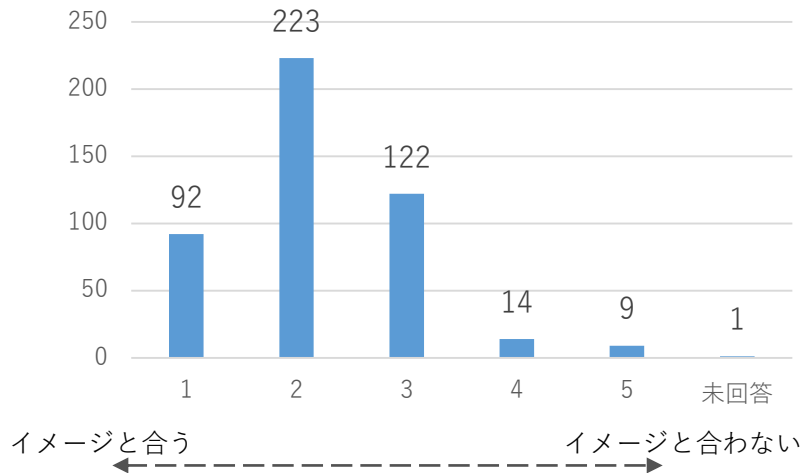
2：イメージに近いに回答「企業もSDGsを共通認識しているので、関連製品やサービスなどまだまだ新しいアイデアが出てくる分野だと思う。」

3：どちらでもないに回答「実感はない。」

4：イメージと少し違うに回答「投資という言葉は、個人的にあまり好きでない。」

Q6-31 省エネ家電の普及

省エネ機器がより普及しており、機器の買い替え時には省エネ機器を選択している。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「各家庭も努力していかなければならない事項であると思います。」

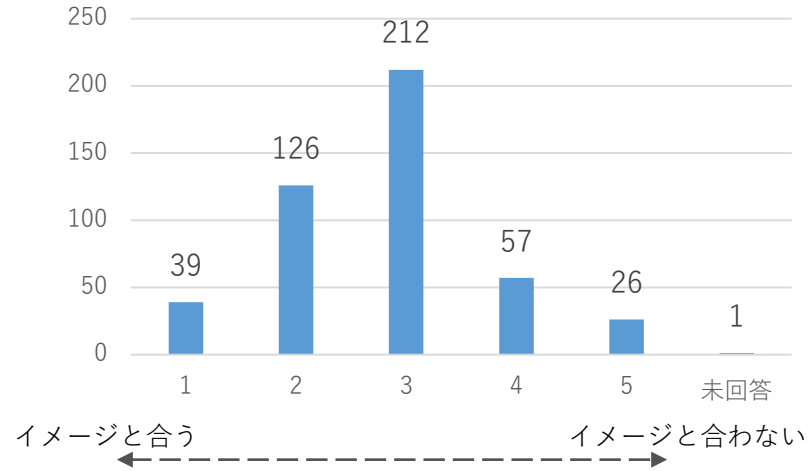
2：イメージに近いに回答「省エネルギー機器の増加は感じる。」

3：どちらでもないに回答「買い替え前のものよりは省エネを選んでいるとは思う。」

4：イメージと少し違うに回答「これからの不景気を考えると無理ではないか。」

Q6-32 営農型太陽光発電の普及

営農型太陽光が普及することにより、遊休農地や荒廃農地が減少し、土地の有効活用ができています。



【自由記入欄】

2：イメージに近いに回答「遊休農地には外部から来た方々が営農目的であれば、太陽光パネルは建築物に該当しないので、農地法の適用がされず、建築しやすい面があり、間口が広い産業になりえると考える。」

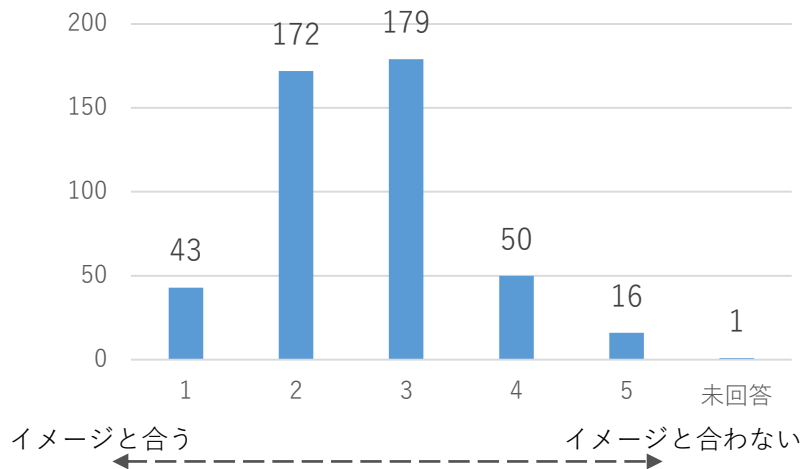
3：どちらでもないに回答「太陽光にも問題があると思うため。」

4：イメージと少し違うに回答「営農型太陽光発電というよりも、それに携わる人を合わせて増やす取り組みを行う必要があると思う。」

5：イメージと合わないに回答「営農型太陽光発電を行う農家も出てくるが、そもそも農業従事者がいなくなり遊休農地や荒廃農地は増加する。」

Q6-33 水辺環境の保全

河川等の水域保全が行われ、生物が生息しやすい水辺環境が整備されており、やすらぎのある景観や環境教育の場が保たれている。



【自由記入欄】

1：イメージと合うに回答「治水が優先される中で、治水と生物多様性の両立が難しいのが現実。これまでの仕組みを見直した新たな技術も研究・開発されており、そうしたことの普及・啓発も広く行われる必要がある。」

2：イメージに近いに回答「よりきれいな河川を目指して実現できていると思います。」

3：どちらでもないに回答「河川等の水域保全を国・県・市がどこまで予算をかけられるのか？人口減少・国内消費の停滞で減少した税収を水域保全にまわせるのか疑問。」

4：イメージと少し違うに回答「河川の氾濫等により、決壊防止の工事が進み、生物が生息しやすい環境とはなっていないと思います。」

5：イメージと合わないに回答「治水の重要性が先にたち、水辺環境は後回しになってしまう。治水をないがしろにするのであればよいが、なかなかそういうわけにはいかないと思う。」

Q7 あなたの年齢は？（令和4年11月1日現在）

18歳～29歳	65
30歳～39歳	122
40歳～49歳	95
50歳～59歳	131
60歳～69歳	43
70歳～79歳	2
80歳以上	2
未回答	1
合計	461

Q8 あなたを含めたご家族（同居している人）の人数は？

1人	53
2人	94
3人	114
4人	143
5人	56
未回答	1
合計	461

Q9 あなたのご職業は？

A 勤め人（会社員・公務員等）	450	F 無職	3
B 家事専従（主婦・主夫など）	0	G 農家（主として）	0
C 会社・団体の役員	4	H パート・アルバイト	3
D 学生	0	I その他	0
E 自営業（商工業・サービス業）	0	未回答	1
合計			461

Q10 通勤・通学先は？

A 上尾市内	408
B さいたま市内	18
C その他埼玉県内	26
D 東京都内	2
E 通勤・通学していない	0
F その他	4
未回答	3
合計	461

Q11 上尾市に住んで何年になりますか？

A 1年未満	54
B 1年以上5年未満	17
C 5年以上10年未満	17
D 10年以上20年未満	29
E 20年以上	256
未回答	88
合計	461

Q12 お住まいの形態は？

A 持ち家（一戸建て）	344
B 持ち家（集合住宅）	35
C 公営・公社・都市機構などの借家	7
D 民間の借家	69
E 社宅・寮	0
F その他	5
未回答	1
合計	461